

題材カード 及び 今年度研究のまとめ

1. 学年 第4学年

2. 「学習の方向性」から題材へ

造形的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を育む「学習の方向性」

- 材料や場所などを基に造形的な活動を思い付き、工夫してつくる。
- 活動したことや表現したもののよさや面白さなどを感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げる。
【A表現（1）ア（2）ア】【B鑑賞（1）ア】〔共通事項〕

題材名

光とかげから生まれる形

～材料の形や光の色を組み合わせ、おもしろいかげをつくってみよう～

「造形遊び」、「鑑賞」

題材目標

- 自分の感覚やかげをつくる活動を通して、形や色などの感じが分かり、身近材と光・かげを組み合わせるなどして手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくるようにする。
- 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、材料と光・かげ、場所などを基に、造形的な活動を思い付くことや、新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するかについて考えるとともに、自分たちの表したものの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げるようにする。
- 進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくり出す喜びを味わうとともに、形や色などに関わり、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うようにする。

題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感覚やかげをつくる活動を通して、形や色などの感じが分かっている。 ・材料と光・かげを組み合わせるなどして手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してついている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色などの感じを基に、自分のイメージを持ちながら、材料と光・かげ、場所などを基に、造形的な活動を思い付くことや、新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するかについて考えている。 ・自分たちの表したものの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 	進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組もうとしている。

3. テーマに迫るために

研究主題	感性豊かに生きる力をはぐくむ図画工作科学習の創造 ～感じる つくる 考える 子どもの姿を求めて～
部会テーマ	工夫して つくることを楽しむ子どもの姿を目指して

○出あいの工夫

＜〔共通事項〕のアの指導にあたり、中学年では、形の感じ、色の感じ、それらの組み合わせによる感じ、色の明るさなどを捉えること＞が求められている。そのために、

- ・光の当たり方や材料の組み合わせ方でかげの形・大きさが変わることの面白さに出会わせたい。
- ・色を付けることでの印象が変化することの面白さを出会わせたい。
- ・光源を動かすことで形が変化することの面白さを、活動の中で感じられるようにしたい。
- ・活動の場所にある様々なものに光を当てるとどうなるのか、場所との関わりからくる面白さも考えられるようにする。

○場の設定の工夫

＜発想や構想に関することで、身近な材料や場所などを基に造形的な活動を思いつくこと＞が求められている。そのために、

- ・感染症対策に考慮した暗室で、一人ひとりが光とかげから生まれる形や色を楽しめる場の設定にしていこう。
- ・自分たちで見つけてきた身近材のほか、学校にある身近材やカラーセロハンを用意し、試しながら活動をつくっていきける環境にする。
- ・活動の場所にあるものを意図的に配置し、子どもの活動と結び付けられるようにする。

○共感的支援の工夫

- ・かげの形や重なるかげの色の違い、うすい・ぼやける・形があいまいになるといった、遊びを通して分かったことから、子どもたちが感じた印象を聞いて共感するようにする。
- ・最後に自分たちの活動の記録から、どんなところに面白さを感じ取ったのか、子どもたちとも共感し合えるようにしたい。
- ・実際のかげの様子を見ることを優先しつつ、狭い場所でのかげを見るなど、児童が記録しておきたいと感じた時などには、ICT 機器を活用できるようにしておき、共感的支援につなげる。

○小中一貫の視点

- ・低学年から太陽光を透過する材を使った造形活動や、自然物を使った造形遊びなどを行っている。
- ・中学年の光とかげを使った造形遊びや、光を透過する材の形・色と自分の思いを関連付けた工作題材などを経験することで、高学年・中学校での、場所の特徴を生かした造形遊びや光の特徴を生かした造形活動につなげていく。

4. 指導と評価の計画 時間2時間

- ア できるかげの形や色の感じを見つけ、組み合わせを試す。(1時間)
- イ かげの組み合わせや色を考えながら、かげづくりを楽しむ。(1時間)

	子どもの学習活動	評価規準 【評価方法】	教師の指導	知・技	思・判・表	主体的
1	<p>ア 光の当たり方 + 身近の材料の組み合わせでできたかげはどんな感じかな。</p> <p>○材と出会う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暗いところでかげをつくと面白いね。 ・この材料に光を当てたらどんなかげができるかな。 <p>○身近な材料を組み合わせ、かげのかたちづくりを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料を重ねたら、違う形になったよ。 ・遠くから光を当てたら、かげが大きくなったけどぼやけるようになったよ。 <p>○できるかげの形や色の感じを見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かげの形がピルの窓みたいだな。 ・全体が青色になると静かな感じになる。 	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の感覚やかげをつくる活動を通して、形や色などの感じが分かっている。 ・材料と光・かげを組み合わせるなどして手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくっている。 <p>【観察・写真記録】</p>	<p>○暗室でのかげは、よりはっきりと見えるというおどろきを大切にしたい。</p> <p>○自分たちで集めた材料に加え、共同で使える材を提示する。その際、感染症対策に留意する。</p> <p>○光の当て方や色の工夫をしている子を紹介し、活動が広がるようにする。</p>	●		
2	<p>イ かげの組み合わせ方や色を考えながら、かげをつくることを楽しもう。</p> <p>○かげの組み合わせ方や色を考えて、かげづくりをさらに楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光を2つにして、別の場所からあてたら影の形が重なって面白いな。 ・この材料とこの材料を重ねてみたら、街の風景みたいになったよ。 ・机の裏にかげをつくってみたら、見え方が変わって面白いな。 <p>○活動したことをお互いに見合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こっちのかげは、重なりがたくさんあって面白いね。 ・同じかげなのに、色が変わると雰囲気はずいぶん変わるね。 ・こんなかげができるなんて不思議だな。 	<p>思・判・表</p> <p>材料と光・かげ、場所などを基に、造形的な活動を思いつくことや、新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するかについて考えている。造形的なよさや面白さなど感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。【観察・写真記録】</p> <p>鑑</p> <p>進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組もうとしている。</p> <p>【観察・写真記録】</p>	<p>○かげを組み合わせたり色を考えたりして、活動を広げられるようにする。</p> <p>○場所とのかかわりについても、子どもの活動を紹介する。</p> <p>○鑑賞活動では、活動の紹介だけでなく、見え方や感じ方についても言及し、共感的支援を行う。</p>		●	●

令和2年度の研究で学んだこと【中学年部】

< 図画工作科で働かせている資質・能力とは（9月学習会の内容から） >

変化が激しく予測困難な現代社会では、一人一人が未来の担い手となるために自分自身に問いかけ、試行錯誤しながら課題の解決方法を探し、他者と協働して新しい意味や価値を創造することが求められる。

図画工作科では、「同様なことを形や色などを基に、自分なりのイメージをもち、体全身の感覚を働かせ対象に触れ、感じ取ったことをもとに表したいことを見付け、連続した活動の中で、自分にとって意味や価値あるものをつくりだす。」これらを繰り返しながら、子どもたちは資質・能力を働かせている。子どもたちがもつ創造力をより豊かなものにするために、資質・能を育むカリキュラム・マネジメントが今後一層求められる。

< これからの授業づくりのポイント（9月学習会の内容から） >

新学習指導要領が令和2年度より全面実施となり、これまでの4観点から育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿って再整理された。

9月の学習会で繰り返し出ていたキーワードは、「活動の過程を大切にする」。子どもたちの活動の過程を大切にするすることで、子どもたちの思いに近づくことができる。教師が指導する上で大切にしてほしい3つのことを示された。

① 想像力を育む

「感じること」「ためすこと」「つくりだすこと」を積み重ねながら資質・能力を育む。

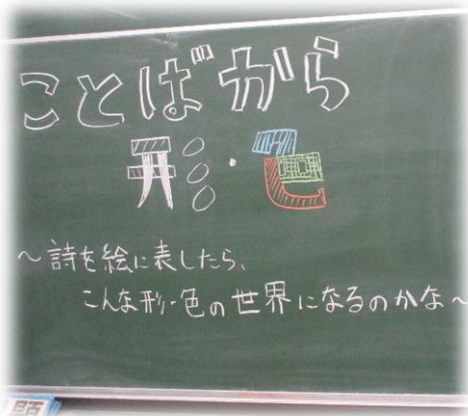
② その子の考え方が見える

「何を感じ、何を試し、どんな意味を込めたのか」を見とる。

③ その子の考えに気付ける

自分の決めたゴールへ向かう「その子」の考えた過程を大切にする。

この3つは、本研究テーマの副題である「感じる・つくる・考える」と重なるところでもあり、自らが創造することの楽しさを十分に味わっている学びの姿であるといえる。そして、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点としても重要である。



<実技研修会、実践提案での成果と課題（10月実技研修会、11月実践提案の内容から）>

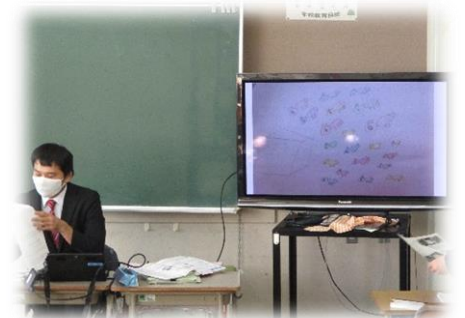
○10月実技研修会では、低・中・高学年で系統性がある「言葉や話から想像を広げて表現する」題材を、実技を伴って実践を行った。

出合いの工夫を示していなかったり、特別な支援をしなかったりする状態では、活動を進めることは難しいと感じる参観者の方が多かったが、「具体物を表すのではなく、形や色で『イメージ』を表してくとよい」「やさしいイメージは、どんな形でどんな色がよいかなど、クラスで話し合ってから活動するのもよい」など意見が出され、初期段階でのイメージの広げ方の手立てを学ぶことができた。「子ども一人ひとりが自分のイメージをもつ」ことについて、他にも、低学年のうちからアートカードなどを通して、自分なりにイメージと形・色をつなげていく体験をしていくことが大切であるといったことや、全体でイメージをもつことが難しい場合には部分ごとにイメージをもたせていくことがよいといったことを参加者と共有することができた。一方で、イメージを絵に表す難しさや評価の仕方の難しさなどの話もあがった。



○11月の実践提案では、プログラミングを取り入れた絵に表す題材「どんどんすすむよ！好物へ！～プログラミングを使って、好きなものに向かっていく様子を表そう～」の様子や学びを共有した。

ICT機器を活用することで、より主体的な学習となり、思考の深まりが見られたことを共有することができた。また、ICT機器のよさを活かし、試行錯誤をしながら発想や構想を広げることができたことも成果として挙げられた。図工として育てる資質・能力と情報活用能力の両立についても話題に挙がった。ICT機器を低学年のうちから段階的に積み重ねていくことや、教員自身のICT機器の技能も磨いていくこと、また図工の資質・能力を育てることを念頭に置いた上でICT機器を活用していくことなどの重要性を共有することができた。また、ICT機器も用具の一つとして子どもたちが捉えられるように、日頃から活用していくことが今後求められるということも挙げられた。



本題材のデザイン（カリマネ）に生かしたところ

- ・本題材では、単にかげをつくって遊ぶのではなく、かげの形や色をイメージしながら活動することが重要となる。自分なりに形や色とイメージをつなげていくことができるように、アートカードゲームや色紙づくりなどの題材を計画的に配置し、年間を通して資質・能力を育ててきた。また、イメージをもつことへの支援についても意識して取り組んできたが、本題材でも全体への支援と個別の支援を使い分け、一人ひとりがイメージをもてるようにしていきたい。
- ・ICT機器についても、感染症対策や子ども自身が振り返るための記録として活用していくことを考えている。映像で撮ったほうがいいのか、静止画で撮ったほうがいいのか、実物を見てもらって感じ方を共有してほしいのか、児童自身が選んで取り組めるように題材開発をするとともに、ICT機器を日頃から使うようにして、「自分の表現を助けるツールの一つ」として扱えるようにしたい。



本題材については、来年度授業実践を行い、研究を深めていくこととする。